

現状維持は、衰退である（ただし、状況によっては・・・）

校長 四本 博彦

1年生18人・2年生19人・3年生21人の全校生徒58人、職員15人で、伊仙町立面縄中学校の令和8年度がスタートしました。

入学式の新入生の呼名の清々しい澆瀨とした返事、脳内をさわやかな風が駆け抜けました。これから起こりうるであろう未来が「明るいこと」を予感させるものでした。また、2・3年生の心の込もった校歌斉唱。その歌声の響きに、新入生を迎える温かさや安心感を与える力強さがありました。

一人一人が、それぞれの青春（あおはる）を謳歌してほしいと願わずにはられません。春は野山の草木が芽吹き、若葉の緑色が鮮やかな季節です。私たちは、春の訪れとともに、別れや出会いを繰り返します。この節目で決意を新たにし、更に成長する進化する自分を目指してほしいと思います。

奄美の山々の春先の緑は、特に鮮やかです。日本の伝統色には、緑系だけでも80種類以上あるとされています。皆さん、一人一人の「緑＝青＝春」が、輝くことを願っています。

さて、「現状維持は衰退である」という考え方が、ウォルト・ディズニーやナイチンゲール、渋沢栄一などの複数の偉人によって、語られてきました。ウォルト・ディズニーは、「ディズニーランドはいつまでも未完成である。現状維持では後退するばかりである。」と述べ、常に革新と挑戦を続ける姿勢を示しています。ナイチンゲールも同様に、「進歩し続けられない限りは後退していることになる」と述べています。

私たちの遺伝子の中に、現状を維持すること（今までどおり）が安全を確保するために、とても大切なことであると組み込まれているとも言われます。周囲や社会は、川の水の流れのように留まることはなく、変化し進化し続けています。その中で、留まり続けることは結果として後退していることを示します。

現状をよしとして、変化することを嫌うのではなく、常に改善（バージョンアップ）を意識しながら、挑戦（チャレンジ）することを期待します。

ただし、状況や体力・精神状態によっては現状維持も必要であり、この柔軟な判断こそが、成長への最大の分岐点です。「誰かに頼る。躊躇（ちゅうちょ）せずに、SOSを出す。」そんなことが安心してできる環境を自ら創ってください。

学校の使命は、愛情をもって子供たちに接し、学校を成長の場にすることです。子供たちを中心に据え、全職員の力を結集し、子供たちを全力でサポートします。

令和8年度も引き続き学校教育への御理解、御協力をよろしくお願い致します。

次

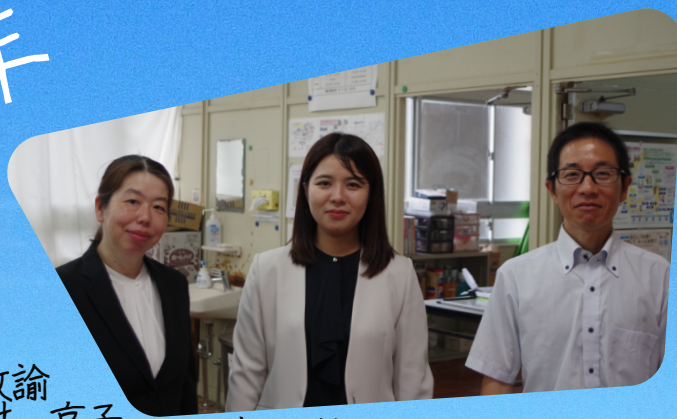
伊仙町立面縄中学校

うんのう魂 4月号



職員紹介

1年



養護教諭
下村 京子

担任
岡世 愛璃

副担任
稲福 真悟

2年



特別支援学級担任
間 美鈴

担任
君付 雄大

副担任
西田 由希絵

3年



副担任 西ノ園 佑志 担任 田中 将八 副担任 宮原 諒真



事務職員
山本 美紅

用務員 基 照美 特別支援教育支援員 折田 卓郎 校長 四本 博彦 教頭 山下 勲郎

5月行事

- 11日(月) 修学旅行～14日
- 19日(火) 集団宿泊学習～20日
職場体験学習～21日
- 24日(日) 3年・PTA奉仕作業

非常勤講師・司書補・スクールカウンセラーについては、次号以降に紹介します。

毎月、第3土曜は「青少年育成の日」、第3日曜は「家庭の日」、毎月19日は「食育の日」、「育児の日」、毎月20日は「交通安全の日」、毎月23日は「子どもといっしょに読書の日」です。